

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒、保護者、教職員が「日本一の定時制高校」と誇れる学校づくりをめざす。

- 1 生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、自己実現のサポート体制を充実させる。
- 2 幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入って良かった。」と実感できる学校づくりを推進する。
- 3 現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、社会の一員として自立した生活を営むことのできる力を養う。

## 2 中期的目標

**(1) 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長**

- 生徒の自己実現を促進するための取組み
  - ・少人数授業や必要に応じた抽出授業による、「授業がわかった」、「授業が楽しい」と生徒が思う授業づくりの推進
  - ・生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び大学進学のための学力を身に付けさせる補講・講習の実施
  - ・T-NET、外国語外部指導員等の活用による生徒の英語コミュニケーション力の向上
- 生徒の学力の正確な把握
  - ・適性検査や基礎学力テスト等による生徒各自が持つ潜在的な能力の発掘と適確な個別指導の展開

※数学基本力調査 漢字検定（自作）日本語テスト の実施

**(2) 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり（スクールソーシャルワークの組織的体制づくり）**

- 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み
  - ・新入生の情報の収集、及び中学校との連携強化による支援方策の検討
    - ※特別な配慮が必要な入学予定生の出身中学校を全校訪問する。（H27：すべての出身中学校と電話で情報交換）
  - ・全教職員の生徒情報を共有するシステムの充実と細やかな指導による卒業率の向上（進路情報連絡会の設置）
    - ※卒業率を少しでも向上させる。（H27年度 3年コース 5名/7名、4年コース 27名/30名）
- 校内支援組織の整備と充実
  - ・校内支援委員会の機能充実
    - ※「高校生活支援カード」「気になるメモ」等のファイルリングによる個人カルテ（個別支援計画）の作成
  - ・SSW活動の推進
    - ※専門家と生徒、保護者、学校との連携による個別支援計画の作成
    - ※児童精神科医、SC、SSW、CCとの連携を推進する
    - ※職業適性検査等の活用
    - ※ハローワークや若者サポートテーション等との連携

**(3) キャリア教育と人権教育の充実**

- 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の実践
  - ・就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みの充実
    - ※学校斡旋就職内定率（H27：5/10名）100%を達成する。
  - ・卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実
    - ※進路未決定率（H27：24.3%）を少しでも減少させる。
- ・人権教育推進委員会の活性化

**(4) 学校力の向上**

- 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進
  - ・教職員研修の充実
  - ・教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築
    - ※研究授業のあり方を検討する。
  - ・専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化
    - ※他校の先進事例等の研究を推進する。
  - ・静かな教育環境の保持及び学校生活のマナーについての意識高揚を図るための組織的な指導体制の構築
    - ※教員相互の指導体制の平準化を図る。
  - ・教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の構築
  - ・部活動の活性化（運動部 50名、文化部 33名/140名 H27: 7/1 現在 入部率 62.9%）
  - ・保護者との連携強化
  - ・将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って企画調整委員会で検討する。

**(5) ICTを活用した校務の効率化**

- 校務の効率化による生徒と向き合う時間の確保
  - ・生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進
    - ※ICT委員会を中心とした円滑な新校務処理システム運用
    - ※ICT機器を使った授業についての研究（視覚教材の活用を推進）

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>回収率 (在籍数 111 名 教員 20 人) 保護者 25.4% (H27 15.7%) 生徒 66.7%(H27 66.4%) 教員 100%(H27 94.7%)</p> <p>※前年度 (平成 27 年) に設問項目を厳選し、項目数を以下のとおりとした。 生徒 20 項目 保護者 10 項目 教員 63 項目</p> <p>●生徒の評価が高い項目 (「よくあてはまる」 + 「ややあてはまる」 合計) ○生徒「教え方に工夫をしている先生が多い」91.5% (H27 87.0%) 保護者「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」83.3% (H27 77%) 教職員「生徒の学習意欲に応じて、学習指導方法や内容について工夫している」100% (H27 89%)</p> <p>○生徒「学校生活についての先生の指導は納得できる」90.1% (H27 83.0%) 保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」85.7% (H27 100%) 教職員「生徒の話をよく聞いて丁寧な生徒指導を行っている」100% (H27 100%)</p> <p>○生徒「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」91.2% (H27 93.0%) 保護者「学校は教育情報について提供の努力をしている」71.4% (H27 91%) 教職員「奨学金教育教材等を活用して奨学金制度等について指導している」90.5% (H27 100%)</p> <p>○生徒「先生は学校の決まりや約束事を守っている」91.5% (H27 88.0%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「職場においては教職員の服務規律への自覚が高い」89.5% (H27 88%)</p> <p>○生徒「学校の施設や設備、道具などは、授業や生活がしやすいように整備されている」93.1% (H27 85.0%) 保護者「学校の施設・設備は学習環境面で満足できる」93.3% (H27 100%) 教職員「施設・設備の点検や管理や拡充は日常的かつ計画的になされている」85.7% (H27 83%)</p> <p>○生徒「生徒のプライバシーは守られている」94.4% (H27 88.9%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている」90.9% (H27 89%)</p> <p>生徒の肯定的意見が多い項目としては、①「授業での工夫・指導法の改善」に関わるもの、②「指導体制の充実・プライバシー保護」に関わるもの、③「指導に対する納得度」に関するもの、④「施設・設備面の整備」に関わるもの、が挙げられよう。①は、全教室にプロジェクターが整備され、タブレット端末等の ICT 機器の活用が進み、授業での生徒の集中度が飛躍的に向上したことから見て取れる。②③は、SSW 活動を主軸に据えた丁寧できめ細やかな支援・相談体制の成果が実を結んだものといえる。④は、障がいのある生徒にも配慮し、前年度から段差の解消や多目的トイレの設置を進めてきた効果といえる。</p> <p>●生徒の評価が相対的に低いもの ○「学校に行くのが楽しい」71.2% (H27 68.3%) ○「部活動に積極的に取り組んでいる」53.5% (H27 58.0%)</p> <p>これらの結果から、学校生活での目標が見いだせず、自尊感情を十分育むことができていない生徒の状況が見て取れる。今後、学校生活において自己有用感を高め、自覚的に行動できるスキルを高める取組みが必須である。 また、「将来の進路や生き方について考える機会がある」84.7% (H27 93.9%)、「文化祭・スポーツ大会・修学旅行等の行事は楽しく行えるよう工夫されている」83.8% (H27 88.0%) といった項目は、評価が低いとは言えないまでも昨年度から大幅にポイントが低下しているので、従来の指導の在り方や行事への取組み方を見直し、生徒のニーズと現状にマッチした内容について検討していく必要がある。</p>	<p><b>第 1 回 学校協議会 (平成 28 年 7 月 20 日 (水))</b> ○学校を取り巻く教育環境および今年度の学校経営計画についての説明 昨年に引き続き今年度も 1 クラス募集、生徒数 114 名でスタートした (各学年主任から、学年の状況を説明)。 ・7 月 24 日の公立高校進学フェアでは、本校定時制課程に対して多岐にわたる相談があり、こうした多様なニーズに対応していくことが、定時制高校に課せられたミッションであると感じた。 ・昨年度に引き続き、SSW (スクール・ソーシャルワーク) 活動を推進し、個別の支援に尽力する。特別支援コーディネーターを中心としながら SC (スクールカウンセラー)、SSW (スクールソーシャルワーカー)、CC (キャリアコンサルタント) といった外部人材と連携をとって校内支援委員会を運営する。また、臨床心理専門職大学院の学生と連携した校内居場所づくりの取組みや、教職を志す大学生の実習受け入れを継続して行う。 ・校内無線 LAN 化が実現し、ICT 機器の活用がしやすくなったので、生徒にとって魅力のある授業づくりを積極的に推進する。 ・企画調整委員会において、本校の将来についての中長期的な教職員の意見を集約し、戦略的な学校づくりの基礎とする。 ・ICT 機器の活用法、スマホ指導方針、観点別評価について等、教職員の見識を多方面において広くするための多様な研修メニューを用意する。</p> <p>●意見 ・教育・福祉・経営の 3 視点をうまく重ね合わせることが定時制教育には必要。生徒と企業をつなぐ取組みをもっと活性化させるべきである。 ・SSW の有効活用がポイント。スーパーバイザーとして、教員とは異なる視点で自由に動いてもらえるよう工夫してほしい。 ・魅力ある授業づくりに期待している。熱意ある教員の言葉で、生徒の姿勢が変わる。 ・要支援生徒を積極的に受け入れることによって、学校が組織として生徒支援をする学校になった。教職員のスキルは確実に向上しているといえる。</p> <p>○平成 29 年度教科書選定について ●意見 ・生徒の状況にマッチした、適切な選定がなされていると感じた。</p> <p><b>第 2 回 学校協議会 (平成 28 年 11 月 24 日 (木))</b> ○学校の近況について、学校長から写真を交えて報告。 ・10 月 9 日の秋季発表大会において、生活体験発表の部で本校生徒が府知事賞に選ばれ、11 月 20 日の全国大会に出場した結果、読売新聞社賞を受賞した。 ○授業見学 1 年生「コミュニケーション英語」、3 年生「家庭総合」の 2 コマを見学 ●意見 ・見学した 2 クラスともプロジェクターを使用していた。ここ数年の授業ツールの進化は目覚ましいものがある。 ・ICT 機器はあくまでツールの一つであって、授業のすべてではない。それを使ってどんな力をつけさせるかが重要。 ・授業を通して自分の生き方や「働く」ことの意義について考えさせるような取組みをしてほしい。 ○第 1 回授業アンケートについて、概説。詳細は 2 回目アンケートと合わせて、第 3 回協議会で詳説する。</p> <p><b>第 3 回 学校協議会 (平成 29 年 2 月 28 日 (火))</b> ○今年度の経過報告 ○授業アンケート、学校教育自己診断の結果報告 ●意見 ・教員向けのアンケート結果の中で、関西大学院生との連携に対する肯定的数字が芳しくない。院生と教員の情報交換をしっかりとやるべき。 ・目に見えるかたちではなくても、院生に話を聞いてもらっていることで精神的に救われている生徒は、かなり多いはずだ。 ・院生との連携事業が始まってからの 7 年間で、中退率が確実に減少している。これも取組みの成果の一つといえるのではないかと。 ・いつアンケートをとるかによって結果が変わるので、別のタイミングでも補完的にアンケートを実施するのがよい。</p> <p>(授業研究について) ・定時制は時間がとりにくいことは承知しているが、授業をビデオ撮影する等、工夫して研究協議をしていくことを考えてほしい。 ・今年度、本校では内部の研究授業、中学校教頭を招いての観点別評価の実践に関する教職員研修、私立高校への先進的実践事例の見学など実施しているとのことだが、今後も工夫して研究することを続けてほしい。</p>

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは「授業見学シート」の活用から始めてはどうだろうか。</li> <li>(中小企業家同友会との連携について)</li> <li>・今年度、校長会と同友会の懇談会が複数回持たれ、相互理解が深まった。今後は一般教員や保護者も含め、連携を強化してほしい。</li> <li>・同友会では教員対象の研修(出前授業等)にも対応可能なので、大いに活用してほしい。</li> <li>・平成 29 年学校経営計画の「キャリア教育・人権教育」の項に、障がい者施設や障がい者雇用事業所等との連携も盛り込んでもらいたい。</li> </ul>
--	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒各自が持つ学力の 最大限の伸長	<p>(1) 生徒の自己実現を促進するための取組み</p> <p>ア 社会で必要とされる学力を身につけるための教育活動の工夫</p> <p>(2) 生徒の学力の正確な把握</p> <p>イ 生徒の潜在能力の発掘と適確な個別指導の徹底</p>	<p>ア 少人数授業や必要に応じた授業を行い、「授業がわかった」、「授業が楽しい」と生徒が思う授業づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び大学進学のための学力を身に付けさせる補講・講習を実施する。</li> <li>・外部講師の活用によりコミュニケーション力のさらなる向上を図る。</li> </ul> <p>イ 適性検査の実施及び英検・漢検の受検機会を促進し生徒の能力の適確な把握に努める。</p> <p>ウ 視覚教材が活用できる教室環境の整備を進める。</p>	<p>ア 「授業アンケート」における「授業内容に興味・関心を持つことができていると感じている」、「授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」の肯定率 80%以上を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語外部講師に関する授業アンケートにおいて授業満足度 80%を維持する。(H27: 89.0%)</li> </ul> <p>イ 適性検査等を実施し、個人カルテを作成し生徒指導に生かす。</p> <p>ウ ICT機器の活用状況 無線LANが活用できるように情報セキュリティーを構築しタブレット型端末が使用できる環境を作る。</p>	<p>ア 授業アンケートにおける当該項目の肯定率は「興味・関心」が 80.9%、「授業中集中・・・」が 81.8%であり、生徒の学習への取り組み状況は良好であるといえる。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人講師に関する授業アンケートにおける授業満足度は 90%であり、良好であるといえる。(◎)</li> </ul> <p>イ 個人カルテを作成し、生徒指導に活用することができた。(◎)</p> <p>ウ 全教室にプロジェクターが配備され、授業におけるタブレット端末等の ICT 機器の活用が飛躍的に進んだ。今後さらに教員研修等で、より効果的な授業での活用法を共有していきたい。(◎)</p>

府立大手前高等学校 定時制の課程

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり</p>	<p>(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み</p> <p>ア 生徒情報の収集と実態把握</p> <p>イ 個人情報の集約化とファイリング</p> <p>(2) 生徒支援組織の整備と充実</p> <p>ウ 校内生徒支援委員会の機能充実</p> <p>エ 生徒相談活動の機能充実</p> <p>オ スクールソーシャルワーク (SSW) 活動を組織的に活性化させる。</p>	<p>ア 合格時点から新入生の情報を収集するとともに、中学校との連携を強化し、必要な支援方を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員が生徒の情報を進路情報連絡会で共有し、個別支援により卒業生数を増加させる。</li> </ul> <p>イ 「高校生活支援カード」や「気になるメモ」等を活用し個人カルテを作成する。</p> <p>ウ 校内支援委員会の機能強化SC、SSWとのケース会議により生徒の進路プランニングを行う。</p> <p>エ 生徒が気軽に相談できる場所作り。保健室、SC、関西大学臨床心理専門大学院と連携した相談室の設置</p> <p>オ 生徒の個別支援計画を作成し卒業後の自立を支援する。</p>	<p>ア 特別な配慮が必要な生徒の出身中学校を全校訪問する。 生徒一人一人を丁寧に支援する本校のSSW活動を中学校へ広報して志願者の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業率を向上させる。 H27：3年次生 5名/7名 4年次生 27名 /30名</li> <li>中退率を前年度から少しでも減少させる。 H27：16名/140名</li> <li>全校生徒の出席率を前年度より向上させる。 H27：約70.6%</li> </ul> <p>イ 学校教育自己診断の評価の3つの項目を前年度より少しでも向上させる。</p> <p>「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」 (H27：83.0%)</p> <p>「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 (H27：84.0%)</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 (H27：79.0%)</p> <p>ウ ケース会議を月例で開催し、プランニングを実現する。 SSWと教員でアウトリーチを含めた行動を実践する。 (取り上げた生徒数 H27:9件)</p> <p>エ 生徒の相談件数と教員アンケート肯定率の向上</p> <p>H27:保健室 943件 関大院生 802件 NPO「み・らいず」321件</p> <p>オ 特別支援の生徒の個別支援計画をできるだけ早期に始め、4年間を見通したライフプランが作成できるようにする。</p> <p>福祉制度の活用と関係諸機関との連携を深める。</p>	<p>ア 特別な配慮を要する生徒の出身中学校にはすべて連絡を取り、情報共有できた。(○)</p> <p>本校のSSW活動の中学校への公報は、十分にできなかったため、次年度は学校ホームページやパンフレットを刷新してアピールしていきたい。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業率 81.5% (△) H28：3年次生 7名/10名 4年次生 15名/17名</li> <li>中退率 (◎) H28：9名/113名 (3月末)</li> <li>全校生徒の出席率 (◎) 4月当初は79.6%を達成。 平均70~75%を維持。</li> </ul> <p>イ 学校教育自己診断 (○)</p> <p>「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」 (H28：86.1%)</p> <p>「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 (H28：88.9%)</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 (H28：71.2%)</p> <p>ウ ケース会議は年間10回開催した。(◎)</p> <p>取り上げた生徒数 H28：66件 職業適性検査の実施件数：16件</p> <p>エ 生徒相談件数 H28 (3月) (△)</p> <p>保健室 述べ 862名 関大院生 述べ 597名</p> <p>教員アンケート (関大院生) 45%</p> <p>※教員と院生との情報交換・意見交流の機会を今後は増やしたい。</p> <p>オ 個別支援の具体化 (◎)</p> <p>4年間を見通した個々のライフプランについて、SSWのケース会議で方針を探った。 H28：66件</p>

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

<p style="text-align: center;">3 キャリア教育と人権教育の 充実</p>	<p>(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の策定</p> <p>ア 計画の企画立案の核となる組織づくりの推進</p>	<p>ア ハローワークや若者サポートステーション、障がい者就業・生活支援センター等と連携した就労指導のスキルを向上させる。</p> <p>・就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みを充実させる。</p> <p>イ 支援教育サポート校からの支援を受けて、障がいのある生徒の就労について、校内支援スキルを向上させる。</p>	<p>ア 学校斡旋就職希望者の内定率100%にする。 (H27: 5/7 71.4%)</p> <p>・外部機関との連携を図り、進路未決定者数の減少に努める。 (進路未決定率 H27: 24.3%)</p> <p>・キャリア・カウンセラー (CC) の活用 ハローワーク、若者サポートステーションとの連携を継続・発展させる。</p> <p>・就労意識の向上を目的にアルバイト経験を勧めたりや職業体験の積極的な活用を推進する。</p> <p>イ 障がいのある生徒の進路指導の確立 職業適性検査から職業体験、そして就労へ結びつける指導を推進する。</p> <p>・生徒のコミュニケーションスキルを向上させるためのワークショップ (WS) やキャリア教育関係の講話を実施する。</p> <p>・学校適応度を数値化し分析する「アセス」プログラムの導入</p>	<p>ア 学校斡旋就職希望者の内定率 (◎) 6名/6名 (3月)</p> <p>・進路未決定率 (○) 22.7%</p> <p>・CC の活用 (○) (年間 100 時間)</p> <p>・アルバイト・職業体験推進 (○) H28: 23 件</p> <p>イ 職業適性検査から職業体験、就労へ結びつける指導の推進 (○)</p> <p>・関西大学臨床心理専門職大学院生によるコミュニケーションワークを2回実施。本校卒業生による進路講話を実施した。 (○)</p> <p>・アセスプログラムについては、本校での実施の是非も含めて再検討したい。(△)</p>
<p style="text-align: center;">4 学校力の向上</p>	<p>(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進</p> <p>ア 教職員研修の充実</p> <p>イ 教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築</p> <p>ウ 専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化</p> <p>エ 教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の構築</p> <p>(2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備</p> <p>オ 部活動の活性化</p> <p>カ 保護者との連携強化</p> <p>キ 企画調整委員会の活性化</p>	<p>ア 教職員研修の系統立てた実施計画を策定する。</p> <p>イ 研究授業週間の一層の充実を図る。</p> <p>ウ 関西大学大学院等外部機関との連携を強化し、生徒の適性に沿った指導体制を強化する。また、他校の先進事例等の研究を推進する。</p> <p>エ 静かな教育環境の保持及び携帯電話や学校生活のマナーについての意識高揚を図るため、組織的な指導体制を構築する。</p> <p>オ 部活動の活性化により、生徒自らが学校生活に潤いを持てる環境を整備する。</p> <p>カ 保護者会と教員の懇談会を実施する。</p> <p>キ 志願者数減少の分析と教員数の減少に伴う校内組織の再構築の検討を行い、学校力の向上を図る。</p>	<p>ア メンタルケア、福祉関係、コンプライアンス等の研修を実施する。 (H27 研修会数 5 回)</p> <p>SNS 関係 学校適応度アンケート 「アセス」プログラム</p> <p>イ 興味ある授業づくりを推進するため研究授業の継続と研修会の実施</p> <p>評価の在り方や学習形態、プレゼンテーションソフトの活用等授業研究の部署を立ち上げ、組織的な研究授業を行う。</p> <p>ウ 関西大学院生による生徒のメンタルサポート事業アンケート (教員向け) を実施し肯定率を少しでも向上させることを目標とする。(H27: 87.7%)</p> <p>エ 生徒指導件数をめやすに学校マナーの徹底を図る。 (H27 懲戒件数 0 件)</p> <p>オ 部活動の奨励 (H27 入部率: 62.9%)</p> <p>カ 保護者進路説明会・教員との懇談会の実施</p> <p>キ 各種委員会の統廃合について企画調整委員会で継続・検討する。</p>	<p>ア 人権関係、ICT 機器活用法、SNS 関係、観点別評価、SSW について、SC より軽度知的障がいについて研修を行った。(◎) (H28 研修回数 6 回)</p> <p>イ 研究授業の取り組みを十分に進めることができなかった。次年度は相互授業見学、研究授業に取り組みたい。(△)</p> <p>ウ 教員の外部人材の肯定率 (H28) SSW:100% (◎) CC: 100% (◎) 関大院生: 45% (△) ※教員と院生との情報交換・意見交流の機会を今後は増やしたい。</p> <p>エ 生徒指導件数 (◎) H28: 3月末の懲戒件数 0 件</p> <p>オ 部活動加入部率 (△) (3月) 男子 65% 女子 50% 全国大会出場 男子 2名 (陸上 5000m) 女子 0名</p> <p>カ 保護者進路説明会を5月26日に実施。就労支援事業所も参加 (◎)</p> <p>キ 教員数減少に対応した改組について、今後検討を進めていく (△)</p>

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

<p>5 ICTを活用した校務の効率化</p>	<p>(1)校務の効率化による教員の生徒と向き合う時間の確保</p> <p>ア 生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進</p> <p>イ 特別支援教育の教材の開発</p>	<p>ア ICT委員会の機能強化と情報セキュリティの整備充実を図るとともに、円滑な新校務処理システムへの移行を図る。</p> <p>イ タブレット型PC、書画カメラ等のICT機器の活用による教材を開発する。</p> <p>ウ 無線LANの環境を整備する。</p>	<p>ア 校務処理システムが正常に稼働しているか点検を行う。</p> <p>イ ICT委員会においてICT機器の研修会を実施する。また、ICT機器を使った公開授業を実施する。</p> <p>ウ 特別支援の公開授業を見学し、定時制にあった教材を作成する。(タブレット型PC、プレゼンテーションソフトの活用)</p>	<p>ア 転編入生徒に対応した校務処理以外は順調に稼働している。(○)</p> <p>イ ICT委員会による機器活用の研修会を実施したが、公開授業までには至らなかった。次年度は実施したい。(○)</p> <p>ウ タブレット型PCを活用した授業等が増えてきたが、今後は本校にあった教材の作成にむけて、他校の実践例を見学し、研究を重ねたい。1月にICT機器を用いた先進的な実践校の授業見学を実施した。(○)</p>
-----------------------------	---	---	--	--